

フィリップ・キャム氏の西宮の公立小学校での授業

2015年11月2日 小学校4年生

子どもたちは輪になって椅子に座っている。

ホワイトボードが用意されている。

T:M 教授が今回オーストラリアのP4Cの実践者であるフィリップ・キャム氏の来日の手はずを整えてくれて、僕の先生なんですよ、大学時代の、それで、ずっと子どものための哲学を共にやってきてまして、この機会に、京都の方に先週末入られて、ずっといらっしやったんですが、折角の機会なので、是非授業をという形で、今回させていただくことになりました。一応、写真撮影とかは無しということをお願いします。何人かの方ですすでにお聞きしている方は構いませんが、なるべく顔が映らないように、よろしくお願いします。

(この間、キャムは通訳にホワイトボードに、

理由を言う 他の人のアイデアを考える 友だちって何？

と書いてもらう。)

(チャイムが鳴って、キャムにこれが授業のスタートを知らせるということを伝える)

(子どもたちは笑い声をあげたりして、結構リラックスしている)

キャム：紹介してもらってもいいですか。

T：フィリップ・キャム先生です。

子どもたち：イエーイと言って、拍手。

キャム：(日本語で) こんにちは。(子どもたちも今日はと言って応える) 皆さん、今日は注意深く聞いて下さいね。私は日本語が全然分らないので、通訳さんに頼らなければいけないのでね。そして、皆も通訳さんに協力して下さい。では、今日皆で一緒にすることを今から言います。でも、始める前にちょっと楽しいことやってみましょうか。その後で、物語、絵本を読みます。そして、絵本について皆でディスカッションしましょう。そして、友だちらしさ、友だち、というとても重要なことについて話し合いたいと思います。最後にこのディスカッションがうまく行ったかなということについて話し合います。いいですか。この授業時間中、二つのことについて常に考えておいて下さい。まず一つは、理由を言うということです。理由を与えるということですね。皆さんが何か意見を言ってくれた

ら、私の方から、なぜそう言ったのと聞くかもしれません。後でちょっと例を挙げましょう。で、もう一つは、他の人の言っていることをよく聞くということです。(隣の子に顔を向けて) あなたが何かを言ったら、(輪の反対側の子を指して) あの子が、あなたの言うことを一生懸命聞いて、また、何でとか、あなたが思ったことについてどう思ったかについて言ってくれます。あの子は賛成してくれるかもしれないし、反対かもしれない。反対の時は、「なぜなら」と理由を言って下さいね。反対なのはどうしてか。(疑似マイクを手にして) このアイデアをちょっと練習してみましょう。今、練習のために皆のところを回ってみて、2、3の人に「どんな動物がいいペットになるかな」ということ聞いていきます。その時には、その理由も言って下さい。さあて、誰にしようかな。

(立って、一人の子どもの前に行く) あなたの名前は？

S1：えりな。

キャム：(マイクを子どもに向けて) どんな動物がいいペットかな。

S1：犬かな。

キャム：何で？何で犬はいいペットになるの？

S1：えっと、何か、(キャムは大きい声でと促す)・・・

キャム：何で犬が好きなの？

S1：かわいいから。

キャム：おー、かわいいから、それはいい理由だ。私の妻も犬をペットにしている。とってもかわいいよ。「かわいい」というのが理由だよ。犬はいいペットだね、その理由がかわいいから。いいですか。(次の子どもの方に行き、マイクを向け) 名前は何ですか。

S2：とおる。

キャム：いいペットになるのはどんな動物かな。

S2：(何も言えない。)

キャム：考えて、何でもいいよ。犬に賛成しますか。それとも猫かな。ペットで飼うとしたら何かな。(S2は何も言えない) 彼はとっても恥ずかしがり屋だな。(隣の子に向かって) 君は？

S3：えー。

キャム：この子はよくしゃべりそうだね。どうかな。ペットとして飼うのは？

S3：えーっとね、ライオン。

(教室中に笑い声が挙がる)

キャム：(皆に向かって) 理由を聞いてみるからね。(S3にマイクを向け) どうして、ライオンなの。

S3：えっと、不審者が来たら、食べてくれるから。

(9分経過)

キャム：面白い理由だね。はい、有難う。

(この後、子どもたちへの質問を終え、用意してきた日本語を書いたカード「なぜなら・・・

だから」を子どもたちに見せて回る) 自分の意見を言った時は、理由を言うようにしてね。授業の間中、「なぜなら・・・だから」ということを考えてね。英語では **Because**。皆、聞いたことがあるかな。

(自分の席に戻って座る)

先ず、物語を読む前に、(ホワイトボードを指して) こっちの方のこと、「他の人が何を考えているか」(「他の人のアイディアを考える」) ということをします。そこで、隣の人とペアになって、この質問「友だちって何？」を一緒に考えて下さい。(二人ずつのペアを子どもの輪を回りながら指定する) お、最後のところは 3 人になってね。「友だちって何？」を考えてもらうのに、1分、時間をあげます。相手の子が何て言うかよく聞いて下さい。友だちが言っていることに賛成かな、反対かもしれないね。自分が言ったことだけでなく、友だちが言ったこともよく考えて下さい。だから、しっかり聞いて下さいね。質問は、「友だちって何だろう」ということで、今のパートナーと話し合ってください。はい、どうぞ。

(12分7秒経過)

(13分12秒経過)

はい、止めてください。では、どうだったかな。

相手の子が何か面白いこと言ったなーっていう子はいますか。(男子児童が手を挙げて、ペアの女子児童を指している) じゃー、あなた。彼女が面白いことを言ったというのですね。さー、どんなことを言っていたのか、皆に言ってみてくれる。

S4：英語でいい？

キャム：皆が分るように日本語でお願い。

S4：みなさんは、友だちはとても大切なものだと思うって言ったので、何か、すごい興味をそそられた。

キャム：友だちは大切な人っていうことですね。ありがとう。他に、相手の子が何か面白いことを言ったなーっていう人いますか。

S5：うんと、親友と言った。

キャム：親友ということだね。それは大切なことだ。

S3：えっと、友だちは絆を深めるもの。(かなり、気が高ぶっている雰囲気)

キャム：絆を深める、それはいいねー。ありがとう。もう一人、最後に誰か言えるかな。面白いことを言ってくれたっていう人は。

S5：えーと、何か大切な人。

キャム：大切な人ね。オーケー、グッド。ありがとう。それでは、次は絵本を読みます。絵本は『とらくんとぼく』。敬子カザさんの作です。それでは、皆に絵を見せながら読んでいきます。英語で僕が読んで、日本語で通訳さんが読みます。

輪になった子どもたちに対して絵本を見せ乍ら、順番に物語を語っていく。

(ビデオ 2 つ目)

キャム : よく聞いてくれてありがとう。

ちょっとだけ、話し合いに入るのに、いくつか質問があります。

今のお話の最初の方で、とらくんはねずみくんの本当の友だちだったかなー？ どう思いますか？ オーストラリアではボールを投げ合うことはしません。日本ではそうするので、びっくりしました。だから、私も投げますね。(S4 にボールを投げて) とらくんはいい友だちだったかな？

S4 : 僕はそんなにいい友だちではないと思います。なぜかという、とらくんはいつも自分が有利みたいな、自分がいい立場になるように、わざとやってたから、だから、本当の友だちではなかったんじゃないかなと思います。

キャム : いつも有利な立場に立っているのは、友だちじゃないってということだね。

S4 : はい。

キャム : はい、それでは付け加えたいという人はいますか。ボールを投げてもいいよ。

S6 : えっと、今の S4 の意見に少し反対です。最初の方は確かに良い立場だったけど、最後の方は、あの、両方が順番に良い立場になっていったから。

キャム : (通訳の問題があって、S6 がまだ発言が終わっていないが) だから、同じ立場になっているときは、いい友だちだっていうことだね。

(時間の問題もあり、キャムは S6 が質問に適切に答えていないことをスルーする)

S6 : うん。

(4 分 12 秒)

キャム : 次は誰かな？

S7 : 僕は S4 の意見に賛成で、何か、とらくんが、例えば、ドーナッツ独り占めしてるけど、ネズミの方はまったく何も言えないから、多分それは本当の友だちではないと思う。

キャム : どんどん続けて。

(4 分 50 秒)

S8 : 僕も S4 の意見に賛成で、えっと、とらくんはいつもドーナツとか、カウボーイごっこをしてもとらくんがいい役をやったり、威張ってみたりしたら、何か、あの一、ねずみくんも可哀想だし、それに、あの、友だちだったら仲良くすべきだと思うから、本当の友だちではないと思います。

キャム : それではもう一人だけね。

(5 分 36 秒)

S9 : 私は S4 の意見に反対で、ドーナツとか、分け合うのは不平等だったけど、それでもネズミ君は付き合っているから、本当の友だちではないかもしれないけど、ちょっとは友だちだと思います。

キャム : (ボールを受け取って) ありがとう。短い時間だったけど、十分議論ができていた。他の人のいろんな意見をちゃんと聞くことができたし、とてもよく話し合いがされたと思

います。もっと聞けたらいいんだけど、時間の都合があるのでこれ以上は聞けません。他の人が何を言っていたかを聞けたよね。他の人が話しているときは注意深く聞くことができましたね。賛成か、反対かということも言えましたね。その意見に対する理由づけもできました。（ホワイトボードを指して、「理由を言う」、「他の人のアイデアを考える」ということ）これをうまくみんなで行っていましたね。

それでは、話し合いをもっと深めていきますが、（と言った後、「友だちとして振舞う」と書かれた黄色いカードを皆に見せながら）いいですか。（と言った後、床にそのカードを置く。次に「友だちとして振舞わない」というカードを皆に見せて、それを床の反対側に置く）そして、クエスチョンマーク（はてな）だけど、「友だちとして振舞っている」か「友だちとして振舞っていない」かわからないときにはここに。この後、グループで議論してもらって、「友だちとして振舞っている」という場合は、このカードに。「友だちとして振舞っていない」という場合は、このカードに。そして議論が分れた場合は、はっきりしないということで、このクエスチョンマークに。

今からある文章を書いたカード皆に渡しますが、小さなグループになってもらいます。（4人で1つのグループを作り、全部で7グループを作る）よく聞いて下さい。今配ったカードを読んで、そして4人で話し合っ、そのカードに書いてあることが友だちらしい振る舞いか友だちらしくない振る舞いか考えて下さい。そしてどうしてそう思うのか、その理由を考えて下さい。分ってもらえたかな。大丈夫ですか。2・3分の時間を与えますので、よく考えて下さい。それではどうぞ。（子どもたちがディスカッションしている間、ホワイトボードに何か書き込んでいる）

子どもたちに配ったカード

はるとは叱られたくないので、ゆうきに先生に嘘をつくように頼んだ。もし、ゆうきが先生に本当のことを言えば、それは友だちらしい振舞いだろうか？

あまりにたくさんのお菓子を食べてはひなたにとってよくないと考えたみおは、ひなたにそう伝えた。みおは友だちとして振舞ったのだろうか？

そうたは仲良しのこうきをおこらせた。なぜなら、そうたはこうきを自分のスポーツチームの一員に選ばなかったから。そうたは友だちとして振舞ったのだろうか？

ゆいはるいに自分の色鉛筆を使わせようとしなかった。なぜなら、そもそもるいは自分の色鉛筆を持って来るべきだったから。ゆいは友だちとして振舞ったのだろうか？

昨日、そらは仲間のゆうまにハンドルを持たないで自転車に乗って通りを走るようけしかけた。そらの行動は友だちらしいだろうか？

りんは自分はあかりの友だちだと言っているけど、あかりに宿題を写させなかった。りんの振る舞いは友だちらしいだろうか？

さきがしつこくからかい続けたのでゆみはムツとした。その時、さきは笑って「ささいなことでいらいらしてばかねえ。」とゆみに言った。さきは友だちとして振舞っただろうか？

(15分15秒経過)

キャム：終わります。この続きをする前に、妻が犬の写真を撮ってきたので、皆に見てもらいますね。(子どもたちは皆、かわいいーと言い合う)

カードに書いてあることは皆違うので、順番に読んでいきます。それでは最初のグループ。大きな声で読んでください。

第1グループ：「はるとは叱られたくないので、ゆうきに先生に嘘をつくように頼んだ。もし、ゆうきが先生に本当のことを言えば、それは友だちらしい振舞いだろうか。」

キャム：友だちとして振舞っているかいらないか、このグループではどう思いましたか。

第1グループ：友だちらしい振る舞いだと思う。

キャム：それではそのカードを「友だちとして振舞う」のところに置いて下さい。それじゃ、その理由は？一番大きな理由は何ですか。

第1グループの子ども：はるとのためでもないし、はるとは、嘘をつくようなことをすれば、成長しないから。

キャム：成長を助けることにはならないということですね。(通訳はホワイトボードに「1嘘をつくこと」の横に「はるとの成長にはならない」と書き込む)

友だちとして振舞う行動は、友だちが成長するのを助けるということですね。OK。それでは次のグループは？

第2グループ：「あまりにたくさんのスナック菓子を食べるのはひなたにとってよくないと考えたみおは、ひなたにそう伝えた。みおは友だちとして振舞っただろうか？」

キャム：それでは、皆さんの意見は？友だちらしい、それとも友だちらしくない。

第2グループの子ども：友だちらしい。

キャム：それでは、そこに置いてくれる。そしてその理由は？

第2グループの子ども：友だちのことを心配しているから。

キャム：友だちのことを考えてあげているということですね。

誰か、友だちらしくないと考えたグループはあるかな。

第5グループの子が手を挙げる。

キャム：それじゃ、何て書いてあるか読んでくれる。

第5グループの子：「昨日、そらは仲間のゆうまにハンドルを持たないで自転車に乗って

通りを走るようけしかけた。そらの行動は友だちらしいだろうか？」

キャム：それは友だちらしくないということだね。それじゃ、カードをそこに置いて下さい。どうして、友だちらしくないのかな。なぜですか。

第5グループの子：友だちだと、友だちに怪我をさせたくないという気持ちが強いはずだから。

キャム：友だちなら、友だちを守ろうとするということだね。

そちらはどうかな。(と言って、第3グループを指す)

第3グループ：「そうたは仲良しのこうきをおこらせた。なぜなら、そうたはこうきを自分のスポーツチームの一員に選ばなかったから。そうたは友だちとして振舞っただろうか？」

キャム：それでは、どう考えましたか。友だちらしい振る舞いですか、そうでないですか。

第3グループの子：らしくない。

キャム：それではどうして。

第3グループの子：なぜなら、仲良しなら、あの一、仲良しだったら、こうきが下手だとしても、仲良しなら、スポーツチームに入れてあげると思うから。

キャム：友だちなら仲間外れにしないということ、友だちのことを考えて、チームに入れてあげて、仲良くすることだね。

(終礼のチャイムが鳴るが、時間を延長してもいいということで、第4グループを指す)

第4グループ：「ゆいはるいに自分の色鉛筆を使わせようとしなかった。なぜなら、そもそもるいは自分の色鉛筆を持ってくるべきだったから。ゆいは友だちとして振舞っただろうか？」

キャム：それでは、どう思いましたか。

第4グループ：友だちらしい。

キャム：どうしてですか。

第4グループ：えっと、大人になっていざやろうとしたらそれができなくなるから。

キャム：もう一度言ってくれる。

第4グループ：えっと、大人になったら、そういうことがいざやろうとしたら、できなくなるから。

キャム：自分で持つてくるべきものを、ちゃんと持つてこなければいけないということかな。(第4グループの発言者は頷く) OK。(通訳に)書いてくれますか。それじゃ、時間がないので次のグループは？。

第6グループ：「りんは自分はあかりの友だちだと言っているけど、あかりに宿題を写させなかった。りんの振る舞いは友だちらしいだろうか？」

キャム：それは友だちらしいかそうでないか、どっちですか。

第6グループ：友だちらしい。

キャム：その理由は？

第6グループ：写させてあげれば、その友だちのためにならないから、そのことを考えて、写させなかった。

キャム：同じだね。友だちのことを考えてということ。もうグループあったね。それでは最後のグループ。

第7グループ：「さきがしつこくからかい続けたのでゆみはムッとした。その時、さきは笑って「ささいなことでもいらいらしてばかねえ。」とゆみに言った。さきは友だちとして振舞っただろうか？」

キャム：どう思いましたか。

第7グループ：友だちらしくない。

キャム：どうして友だちらしくないのかな。

第7グループ：しつこくからかっているから。

キャム：too much teasing. OK

(6分05秒)

キャム：(ホワイトボードに注目させて) 友だちらしく振る舞うことと振る舞わないことに対して、いろいろ面白い理由が出てきましたね。もっと時間をかけて話し合ったら、もっといろんな意見が出てきたと思います。今日はちょっと時間が足りないので、あともう一つだけ、今日の授業の評価をしましょう。(親指を突き出して) これはうまくいったよということ。(親指を下にして) これはうまくいかなかったということ。(腕を突き出してグーを作って) これはマーマーということ。(親指を少し上下に動かして) うーん、マーマーかな。OK,二つ質問があります。自分だけでなく、みんながどうだったか。みんながうまく理由が言えたなーという人。(子どもたちはそれぞれ右手を突き出して評価を示す) 最後のグループ分けをして話あった時に、他の人の意見をよく聞けたかな。(子どもたちの大半はマーマーの評価) マーマーだったけどもっとうまく聞けるようになるよ。これで、授業は終わります。

ホワイトボードの記述

	友だちとして振舞う	友だちとして振舞わない
1 嘘をつくこと	はるとの成長にはならない	
2 ジャンクフード、スナック	友だちのことを考えている	
3 スポーツ		同じ仲間に入れてあげない
4 色えんぴつ	学びを促す	
5 自転車		友だちの安全を考えていない
6 宿題	学びを促す	
7 からかうこと		しつこくからかう

授業の後の討議

M：この後、今日の授業について、質疑応答を行います。またコメントあるいは印象などがあれば、是非とも発言していただきたいと思います。

UM 小学校教諭：今日は最後にいろいろ質問があったのですが、一つだけでも十分時間があつたのではないかと思います。たくさん質問した理由は何でしょうか。

キャム：時間にどうしても制限があつたのは、通訳を通さなければいけなかつたということで、普通はこの時間内で取り上げることが可能です。もっと簡単にするために同じシナリオをグループが話し合うようにすることはできます。友だちのような複雑なトピックは、まずは、違ったいろんな質問をすることで、様々な観点から見るようにします。そして、いろいろ出て来た観点の中からキーワードをいくつか選んで、それをさらにまた深めていくというようにします。今日は、あまりにも沢山のことを詰め込み過ぎたかもしれません。

J 大学教員：二つ質問があります。一つは、30人だと多すぎて、なかなか難しいなと感じたんですが、キャムさんは30人ぐらいだったら、やるのに難しくはないですか。それが一つの質問です。

キャム：オーストラリアの小学校では30人クラスというのは普通のサイズです。これが普通なのですが、長いディスカッションでも30人というのは多すぎるかもしれません。例えば、30分のディスカッションというのは長いですね、それでも、単純に計算しても一人1分で30分ということになってしまいますね。ですから、人数が多い時は、小さいグループ分けをして、ディスカッションを行います。まず、2人ペアで行い、それからクラス全体のディスカッションをします。小さいグループ分けで重要な点は、ディスカッションの課題をはっきりと示すということです。小さいグループがそれぞれきちんと計画した通りにディスカッションをしているかを確認して回るのは大変なので、小グループでのディスカッションの時には、課題を段階に分けて少しずつ話し合えるようにします。今日はできなかったのですが、役割分担ということもできます。記録を作ってきてちゃんと聞くようにする、理由を報告するようにする、はっきりと何を言いたいかということを理解するようにする、コミュニカティブ・アクト、知的課題といったものがすべて活動に組み込まれていなければいけません。

J 大学教員：もう一ついいですか。今日の授業では子どもが質問を取り違えたと思うのですが、例えば、物語の初めの方でとらくんは友だちでしたかという質問を取り違えて物語の後の方ことを答えたり、あるいは理由にならない理由を挙げている場合があつたと思います。つまり、子どもの中に誤解とかが生じている場面がいくつかあつたと思いますが、今日は時間がなかつたので、仕方がなかつたと思いますが、このような場面では進行を

そのまま流されたわけですが、それには理由があつたのでしょうか。

キャム：例えば、確かに、質問を混同している子どもがいました。普通はそれを直していくのですが、その場合、教師が違うよ、質問はこうだったよと言うのではなく、他の子がこうだったのと違うというように、子どもたち同士で修正していくように持って行きます。今日は時間がなかったなので、流してしまいました。もう一つ加えたいのですが、先生として私たちが陥りがちなのは、介入して行って間違いを頭から直したりすることです。先生というのはもともと指示を与えて修正するというのが仕事ですから。しかし、このような活動については、子どもたちが考えて、子どもたちで動いていくことが非常に重要です。

O 大学院生：今日のように大きい人数ではなくて、時間にあまり制限がなかったときに、例えば、ある子が困惑しているような状態で答えたり、質問をあまり理解できていなかったり、あるいは質問に答えてはいても、答えと理由が一致していなかったりしている場合があつて、時間がたっぷりあつたとしたら、他の子がそれを指摘できるように促したりするということですが、子どもたちが、間違っているよと指摘できればいいのですが、できなかつたり、誰も指摘する人がいなかった場合はどうしますか。

キャム：一般的な感じでお答えしますが、教師としてできることは、子どもたちにそのトピックについて十分に、注意深く考えてもらうこと、そして批判的に考えてもらうということです。この年頃の子どもたちには通常ツールボックスを用います。それは考えるためのツールで、例えば、理由を言う時、一つのツールを使います。違いを見つける時にもツールを使います。考え方をはっきりさせるということを学んで欲しいときにもツールを使います。授業では焦点を当てるツールを使います。最初は一つだけです。他のツールを使わないで、正しい方向に行かなくても、焦点を当てているツールだけに注意を払います。一つのレッスンで子どもに学んで欲しいこと、それに焦点を当てて、そのためのツールにいつも戻って授業の計画を立てるようにします。一回ですべてのツールができるようになるわけではないので、時間を取って行います。よく使う喩えを用いれば、例えば、家の水道が壊れたときに私たちは修理屋さんを呼びます。その時、修理さんは必ず工具箱を持ってきます。これと同じように、子どもたちもそうですし、小学校の先生がこういうことを教える時に、いろんな道具をうまく使うということが、知的活動にも言えるわけです。ツールも的確に使えるようになるには時間がかかります、どれとどれを組み合わせる使うかということも学ぶ必要があります。範囲と段階を長期的なプロセスを経て行っていくことが大切です。

N 小学校教諭：カードを7つ用意されたわけですが、これが面白いなと感じました。私であれば、一つだけ選んで提示すると思います。ところがいろんなカードを用意して、いろんな角度から見るということもありましたし、子どもたちが、一つのトピックだけだと、グループで話し合ってもう終わってしまい、それ以上進まないんですね。自分が授業をしていてそういう状況になるのです。全体で共有する必要が無いというか、みんな同じことをもう話し合っているから、聞かないんですね。自分たちのグループでもう話し合っ

しまっているのです。今日の子どもたちは結構興味を持って行っていました。5時限目で、これだけの人がいる中で。色鉛筆の話が出た時に、周りから僕は違うなみたいな反応がありました。このようなときは時間があつたら、ちょっと聞きたくなると思ったんですが、

キャム：このことについては二つのことを言うことができます。一つは、グループ内で意見の相違があった場合は、注意しておいて、どちらともつかないということでクエスチョンマークのところカードを置くべきだったと思います。もう一つは、そのグループはどちらかの判断にカードを置いたとき、他のグループが同意していない、むしろ反対のところに置くべきだと考えた場合、そのことについてディスカッションするようにさせます。このグループはここに置いているけど、どう思うというように。そしてクラス全体のディスカッションに戻って行って、意見の交換をさせる。理由を言う、耳を傾けるというように、行ったり来たりが起こるわけです。理由のバランスをとることをやっていきます。それは判断をするということの訓練になります。自分の意見とは違う人の意見を聞いて、どうしてなのかとしっかり聞いて、自分の判断を変えていくということですね。人の意見を聞いて、自分の意見を入れて、バランスのとれた判断をしていくことを学ぶ、これは教育の基礎となることで、非常に重要なことです。生きていく上でも必ずしも同じ意見に取り囲まれているわけではない、反対の意見もあるということになる。自分の意見とは違うことをどのように対処していくかということ学ぶことは、教育の根本ではないでしょうか。このようなディスカッションを通して、子どもたちは人の意見を聞いて、考えるという性格を養うことになります。いじめの問題とか、差別の問題とか、お互いに話もしないとか、家庭内の問題とか、絶望的な状況に陥った若者が自殺するとか、いろいろな問題があります。だからこその人と問題を話し合っ解決をしていくということ学ぶということが大切なわけです。